

12月 VOL.71

ぼくたち わたしたちの みちしるべ ~Run to the FUTURE~



全国のみんな
これにちは!!

いよいよ今年も大詰め。みんなの2012年はどんな年でしたか?
残り一ヶ月で新しい年がやってきます、失敗したことや怠けていたことを後悔しても何も始まりません。
一年の最後の月に一年分の反省をして、新たな気持ちで新年を迎えましょう!!

2012年12月1日発行
発行元
早稲田育英ゼミナール
0120-198176
www.wasedaikuei.co.jp

冬について

冬（ふゆ）は「冷ゆ（ひゆ）」「振るう（ふるう）」「震う（ふるう）」や動物が出産するという意味の「殖ゆ（ふゆ）」などからきた言葉であることをみなさんご存知ですか。山に住む動物は冬眠に備えるために冬ごもりし、大地からは緑が消えます。新しい生命の始まりとなる春までの充電期間となる季節です。

冬を表す言葉

- 立冬（りとう）**
立冬は冬の始まりという意味です。時期的には11月7日頃、太陽の光が弱まり、冬枯れの景色が目立つようになります。秋分と冬至の中間にあたり、昼と夜の長さを基準に季節を区分する場合、立冬の日から立春の前日までが冬とみなされます。季語には、「冬立つ」「冬に入る」などを用います。全国の学校では文化祭などが行われる季節です。旧暦では9月後半から10月前半の時期にあたります。
- 小雪（しょうせつ）**
小雪とは、冬とはいえまだ雪はさほど多くないという意味があります。時期は11月22日頃で冬将軍が到来するといわれますので、北の地方ではコタツを押入れから出す家が増える頃ですね。西日本においては夏みかんを収穫する季節になります。旧暦では10月頃になります。
- 大雪（たいせつ）**
大雪とは、山岳地帯ばかりでなく平野地帯にも雪が降り積もる季節ということからついた呼び名です。時期的には12月7日頃、九州地方でも氷が張ります。ぶりなどの冬の魚の漁が盛んになり、熊が冬眠に入ります。街はクリスマスムードが漂っている頃ですね。旧暦では10月後半から11月前半の時期にあたります。
- 冬至（とうじ）**
12月22日頃にあたり、冬至の意味は「日短きこと至る」で、1年で1番太陽が出ている時間が短い日です。別の言い方に変えると、この日は1年で最も夜である時間が長いということになります。そのため、昔の人々は生命の終る時期だと考えていたようです。現在でもその厄を払うためにかぼちゃやお汁粉を食べて体を温めることで、栄養をとり無病息災を願う風習が続いています。また、柚子湯に入ることも有名ですね。旧暦では11月頃になります。
- 小寒（しょうかん）**
時期は1月5日頃で、小寒は「寒の入り」つまり寒さのはじまりという意味があります。本格的な寒さではないという意味があるようですが、実際この頃になると寒さは厳しくなります。寒中見舞いは小寒から出し始めます。旧暦では12月1日前後から約半月になります。
- 大寒（だいかん）**
時期は1月20日頃、大寒とは、1年でもっとも寒い時期という意味です。小寒から数えて15日後とされており、小寒から大寒までの15日間と大寒から立春までの15日間、計30日間を「寒の内」といいます。耐寒のための様々な行事が行われます。武道では寒稽古が行われます。旧暦では12月頃となります。

冬を感じる瞬間ランキング

（参考：gooランキングより）

- 1位 吐く息が白くなる
- 2位 コートを着るようになる
- 3位 手袋やマフラーを出すようになる
- 4位 初霜がおりる
- 5位 暖房器具を出したとき
- 6位 クリスマスの飾り付けがはじまる
- 7位 手足が冷えるとき
- 8位 年賀状の販売がはじまる
- 9位 初雪のニュースを見たとき
- 10位 紅葉が赤く色づく

1位は「吐く息が白くなる」でした。たしかに、冬だなあと感じる瞬間ですね。2位と3位は防寒着を出す頃が冬を感じる瞬間だと答える人が多かったようです。つい慌ててクローゼットからコートを取り出して、クリーニングのビニール袋を急いで取り取る人も多いのではないでしょうか。クリーニング屋さんのタグがついたままになっている可能性もありますので、必ずはすすようにしましょう。また、上位には周りの風景の色の変化から冬だなあと感じる人も多いようです。

この冬絶対食べたいご当地お鍋ランキング

（参考：gooランキングより）

- 1位 石狩鍋（北海道）
- 2位 きりたんぽ鍋（秋田県）
- 3位 ジンギスカン鍋（北海道）
- 4位 ふぐちり（山口県）
- 5位 すき焼き（兵庫県）

地元の石狩川でとれた鮭と野菜をコンブのだし汁をとり、味噌仕立てにしたお鍋「石狩鍋」が1位に輝きました。1位から3位は冬の寒さが厳しい地域からのお鍋ですね。今年はみなさんどんなんお鍋を食べましたか。冬の代名詞おでん（静岡県）は9位でした。寒い冬にはあたたかいお鍋であつたまつて、風邪などの病気も吹き飛ばしましょう。

寒い冬が来ますと、ついつい家にこもりがちになりますが、クリスマスやお正月などイベントがたくさんある季節です。楽しい冬を過ごすためにも、暖かく着込んで、風邪の予防も万全で、思い切って外に出てみることも大切ですよ。

また、受験生にとっては、寒い冬を乗り越えることが、受験という山の頂上に到達するためのラストスパートとなります。どうか悔いのないよう、一日一日を大切に過ごしてくださいね。

12月の年中行事



「光陰矢のごとし」といいますが、2012年も残すところ1ヶ月足らずになりました。高浜虚子の句に「去年今年貴く棒の如きもの」という俳句があります。年末になるとなぜかこの句が思い浮かびます。

12月の古称は「師走（しわす）」といい、文字通り慌ただしく、忙しい時期です。また、新しい年を迎える準備の時期でもあり、忙しい中にも期待や夢の膨らむ月でもあります。そこで、12月の年中行事について取り上げてみました。

【歳暮】12月上旬～中旬

夏の中と同様に、上司や親戚、お世話になった人々に年の暮れに贈り物をする習慣です。本来は12月上旬から中旬頃にする歳末の贈り物ですが、デパートの歳末商戦などで年々早まり、11月下旬から送り始める人も出てきています。

その起源は、年の変わり目に「歳神様」や「先祖の靈」を祀る「御靈祭り」の供物として、盆暮れの帰省のときに、それぞれの家庭を訪ねてその家の神仏に供えていたものでした。それが贈り物の習慣にならなかったのではないかといわれています。

先祖への供物は、野菜や魚などの食物が多く、収穫や実りの感謝、無病息災、健康への願いなどがこめられていました。なかでも新巻を送ることが多く、それは塩鰯が冬の保存食として重宝されたからだといわれています。



【赤穂義士祭】12月14日～15日

元禄15年12月14日の深夜から翌15日、赤穂藩の義士四十七人が吉良上野介の屋敷に討ち入り、主君の仇を討ちました。それが歌舞伎の演目として江戸の庶民にもてはやされ、次第に演劇や映画やTVドラマなどに取りあげられ人気を博すと、その義士に縁の寺や神社、その近隣の商店街などで各種の行事を行うようになりました。

江戸時代の元禄年間は、五代將軍徳川綱吉の権勢のころで、「生懸機みの令」により、庶民よりも「お大様」が大切にされる風潮のなか、武士の間や豪商の間で賄賂が横行し、庶民は少なからずお上のすることに不満を感じていました。

そのような世情、赤穂藩主浅野内匠頭は江戸城内松の廊下で、吉良上野介に刃傷（刀で切りつける）に及びました。

当時は武士の間の諂いは「喧嘩両成敗」ということになっていましたが、幕府の裁定により、刃傷に及んだ浅野内匠頭は切腹、赤穂藩は取り潰し、軽い傷で命に別状のなかつた吉良上野介はお構いなしとなりました。

この裁定を不服とした赤穂藩は、家老の大石内蔵助を筆頭に、お家の再興を願い努力しましたが、かなわず望みを踏みだれ、赤穂藩の約三百人の家来は浪人を強いました。そこで主君の無念を晴らすため、入念に準備をして元禄15年12月14日夜、大石を中心にして赤穂の義士四十七人が吉良邸に討ち入ったのです。

この事件は、人形浄瑠璃や歌舞伎の演目として、腐敗した武士の世の中で、武士の忠義を貫いた仇討ちとして脚色され「忠臣蔵」という名で上演されて人気を博しました。

有名な作品として『仮名手本忠臣蔵』（竹田出雲らの合作）、『元禄忠臣蔵』（真山青果作）があります。現代でも12月になると歌舞伎座で上演されたり、映画になったり、TVドラマになりました。

『仮名手本忠臣蔵』は江戸時代に上方の人形浄瑠璃として上演されたので、実名では幕府の取り締まりに会うので、浅野内匠頭は塙治判官、大石内蔵助は大星由良之助、吉良上野介は高師直など役名をかえて劇にされました。

『元禄忠臣蔵』は昭和9年、真山青果が赤穂義士を近代的な視点、考え方でほぼ史実に忠実な人間劇として描き、忠臣蔵戯曲史上特筆されるべき作品として、昭和歌舞伎の最高峰といわれています。「大石最後の一日」のほか、『江戸城の刃傷』、『御浜御殿豊國』、『南部坂雪の別れ』、が有名です。歌舞伎でぜひご覧ください。



【冬至】12月22日

二 十四節気の一つで、一年のうちでもっとも昼が短く、夜の長い日。この日を境に次第に昼が長くなり、暦の上では春に近づいています。二十四節気とは、太陽の黄緑にしたがって一年を24等分し、それぞれの季節にふさわしい名前をつけたものです。昔から農作業の何を始めるかなどの季節の目安とされてきました。お年寄りの方で今でも二十四節気を目安に衣替えや年中の諸行事をしている方もいます。

ところで、冬至にはゆず湯に入り、かぼちゃを食べる習慣があります。昔から、ゆず湯に入ると風邪を引かないと言い伝えられているからです。

ゆずの香りが邪気を払い、身を清めるとされ禊の意味があったとのことです。現代ではゆず湯はストレス解消など心身のリフレッシュ効果と体を温めて風邪の予防や神経痛に効能があるとされて行われています。小豆粥を食べる地方もあります。また、かぼちゃは別名を「南瓜」といい、女性の好む食べ物の一つですが、夏から冬に収穫されて保存がさくため冬の野菜の少なかった昔は保存食として重宝されたのです。ビタミンAを多く含み目や体の健康に役立ちました。



【天皇誕生日】12月23日

今 上天皇の誕生日。天皇誕生日は、昔は天長節といっていました。ちなみに、明治天皇の誕生日は11月3日、大正天皇は8月31日、昭和天皇は4月29日で、いまは「みどりの日」として国民の祝日になっています。

【クリスマス】12月24日～25日

クリスマスはキリストの誕生日とされ、現代では世界各でいろいろな行事が行われています。クリスマスツリーやプレゼントには赤・緑・白・金・銀などの色がよく使われ飾られていますが、それそれに意味があるとされています。また、風水という占いでもそれぞれに意味があるとされています。



西欧などキリスト教の諸国では、キリストの降誕祭として祝祭日正在进行るところが多いです。日本では、室町時代の1549年にフランシスコ・ザビエルという宣教師が日本に渡来て伝え、最初は簡単に受け入れられませんでしたが、守護大名らのなかに庇護するものも現れ、各地に布教されました。しかし、その後幕府の弾圧にあって苦しい時代もありました。その弾圧に抵抗した「天草四郎の乱」は有名です。

【大掃除】12月中旬～下旬

掃除をして家中の一年間の汚れを取り、正月を迎えるための準備をする行事。もとは「煤払い」いう宗教行事で、歳神様を迎えるために屋内の煤や埃を払い清める神事でした。それが広がり武士も町民も正月の準備として大掃除をし、その後に正月用の松飾り（門松）用の松を山にきりに行く「松迎え」の行事を行いました。現代の一般家庭では、煤払いの日は煤棚や仏壇の掃除だけを行い、家中の大掃除は暮れが押し迫ってからやるのが普通です。

【大晦日】12月31日

年最後の日。昔は月の終わりを「みそか」といっていました。12月31日は、「みそか」の中でも、一年の最後の「みそか」なので大晦日といいます。また、月末を「つごもり」ということから、大晦日を「大つごもり」という言い方もあります。



大晦日には日本中のお寺で除夜の鐘がつかれます。108回打ち鳴らされますが、十二ヶ月と二十四節氣、七十二候をすべて合計した数だといわれています。また、人間には108個の煩惱があり、それを祓うためにその数だけ鳴らすとも言われています。鐘のつきかたは、午前0時になってからつきだす所と107回を年内につき、最後の1回を新年になってからつくところがあります。

大晦日には「年越しそば」を食べる習慣があります。細くて長いそばを食べることで长寿を願った風習です。今でも大晦日には「年越しそば」を食べる家が多いと思います。

12月は一年の終わりで忙しいと思いますが、健康に注意して、希望にみちた新年を迎えてください。



中学3年 東海大学駅前教室

高橋 直也さん 「緊急地震速報について」

東日本大震災から、一年半が過ぎた。あの大震災の後、数カ月間は余震が続き、緊急地震速報が相次ぎだ。ぼくは携帯電話から警告音が鳴る度に、焦りと恐怖感に襲われた。

ところが、最近になって、緊急地震速報がそれほど正確なものではなかった事がわかつたらしく、緊急地震速報が出されても、ごく小さな揺れだったり、出された地域以外の場所が揺れた事もあったそうだ。これでは過度に恐怖感を与える結果になってしまうと思う。緊急地震速報は、気象庁が中心となって出しているそうだ。今後、研究や調査を重ねて正確性を高めてほしいと思う。

また、緊急地震速報が出てから、実際に揺れが起きるまでの短い時間にできる事は、「火を消す。身を安全な場所に隠す。」など、わずかな事に限られる。速報も大切だが、やはり日頃から防災についての意識を高めておく事が何より大切だと思う。自然災害前にしては、人間は無力だ。それを忘れてはならない。



このコーナーでは、様々なクイズ・なぞなぞ等を出題します。正解者の中から抽選で、5名の方に図書カード1000円分をさし上げます。

塾長の手元にある応募用紙（アンケート用紙）に答えを記入して、塾長に提出してFAXしてもらってください。さあ、いろいろ智恵を借りながら、みんなで楽しくレッツチャレンジ!

Q. 5 × 1000 = ○M -
○にはいるものはなに?

中学3年 日野教室

山口 真由子さん 「人への心づかい」

ふと気づくと、友達が私の隣で泣いていた。友達は部活の引退試合で完敗したそうだ。私はただ寄りそうことしかできなかった。しばらくして、友達が私に「ありがとう」と言つた。私はそのとき、なぜかはわからないが、とてもうれしかった。

私が「幸せ」を感じるのは、人の役に立てたときだ。だから「ありがとう」と感謝されたときだ。だからお礼を言われたときは、お礼を言った方も言われた方も心がほっこりする。私はその心の温かみこそが「幸せ」だと思う。

みんなが「幸せ」を感じるために私は何をすればいいのか。私は周囲の人々への心づかいを忘れないようにしたい。人を気づかっていれば、相手も良い気持ちになる。その積み重ねで、「幸せ」が感じられると思う。簡単な事だが、人への心づかいを大切に、私は生活していかたい。そして、みんなが笑って暮らせるような「幸せ」をみんなに広げていきたい。